利神城

りかんじょう

宿場町・平福「華の平福朝駆けに」

JR佐用駅から智頭急行に乗り換えて平福駅を降りると、「大原夜出て釜坂越えて華の平福朝駆けに」と里謡にも歌われるほど、江戸時代に因幡街道有数の宿場町として栄えた「平福」です。

佐用川沿いに点在する土蔵や川座敷のほか、千本格子の家並みがその面影を残し、往時の風情をかもし出しています。

また、自然薯やこんにゃくなど、地元特産の味を楽しめる道の駅「宿場町ひらふく」などがあり、年間を通じて多くの観光客が訪れます。

この宿場町を見下ろすように石垣の連なる山城が見えます。これが利神城跡です。

かつて三重の天守をもち、「雲突城」ともよばれた近世の利神城は、江戸時代に池田輝政の播磨52万石、北の支城として輝政の甥の由之が大改修した姿です。利神山上にそびえるその姿は因幡街道有数の偉容を誇ったことでしょう。

そもそも、利神城の歴史は中世までさかのぼりますが、築城者を含めて詳しいことはわかっていません。天正五（1577）年の羽柴秀吉の上月城攻めでは、唯一戦いから免れています。福原城と上月城が落城したとき、利神城主の別所氏はなす術がなく、人質を出して秀吉に降伏します。その後の別所氏は消息が途絶えます。

これとは別に、利神城主の別所氏を上月城の山中鹿介が攻め落としたとも伝わっていますが、真偽は定かではありません。

これ以降、天正六年（1578）年に上月城を毛利氏が落としてからは、池田氏が領有するまで宇喜多氏が領していたとの説が有力です。

その後城下町から宿場町となった平福、町のあちこちに、往時の面影を残しており、瓜生原家住宅や、川端風景、平福駅北にある藩主屋敷跡に残る石塁、宮本武蔵初決闘の場、平福郷土館など歴史を感じさせる観光スポットが満載です。

その他、地元特産の野菜や加工品がそろう「平成福の市」（道の駅敷地内）や明治21年創業、約120年以上の歴史をもつ河内屋旅館などがあります。

また、ボランティアグループ「佐用町平福観光ガイド協会」では、観光客に利神城や宿場町の歴史を語りながら史跡などを案内しています。

ガイド一人につき1回3，000円。ご利用には、7日前までに予約が必要です。（TEL0790・83・2373　道の駅宿場町ひらふく）ぜひ、ご利用ください。

※現在、利神城跡は石垣や登山道での崩落の危険性があるため、城跡までの登城は差し控えていただいています。

※平福や利神城に関することは、「利神城と平福のまちなみ」（佐用町）にくわしく掲載しています。教育委員会や図書館、平福郷土館などで販売しています。一冊2百円。

ちょっと寄り道

道の駅　宿場町ひらふく

平福の川端風景をモチーフとした外観が特徴の道の駅宿場町ひらふく。地元特産の素材を使用した食事を提供するレストラン、ご当地B級グルメが味わえるフードコーナーに加え、特産品コーナーでは佐用の工芸品・特産品を展示・販売しています。また、併設の情報コーナーでは、道路状況、町内の観光案内などの情報を提供しています。

さらに駅の真正面には利神城跡、旧街道に入れば古い街並みや川端風景という好立地も見逃せません。平福巡りの拠点として、佐用へお越しの際はぜひお立ち寄りください。

《アクセス》　ＪＲ姫新線佐用駅から約 5.6ｋｍ 智頭急行平福駅から約0.3ｋｍ　中国自動車道佐用ICから約2.7km 鳥取自動車道（上り線）佐用平福ICから約 1.5km
問合せ先　道の駅宿場町ひらふく　住所佐用町平福 988-1
電話 0790-83-2373　営業時間　8：30 ～ 18：30
定休日　水曜日（祝日の場合は翌日）
年末年始　12 月 30 日～ 1 月 1 日

平福郷土館

「道の駅宿場町ひらふく」から北東へしばらく行くと、大きな提灯が目印の平福郷土館があります。

敷地内には五輪塔があり、説明では江戸時代にはこの敷地は牢屋跡だったとか。

建物は、おなじ平福にある瓜生原家をモチーフにした古民家風。中に入ると1階は宿場町平福の生活を伝える民具や佐用町内の発掘調査で見つかった出土品を展示しています。

２階は利神城に関する展示です。説明パネルによる展示解説のほか、瓦や土器などの出土品、伝利神城出土の鯱瓦なども展示されています。

《アクセス》ＪＲ姫新線佐用駅から約 6ｋｍ　智頭急行平福駅から約 0.7ｋｍ　中国自動車道佐用ＩＣから約３ｋｍ
鳥取自動車道（上り線）佐用平福 IC から約 1.5km
問合せ先　平福郷土館　　電話 /0790-83-2635（開館時のみ）
所在地 / 佐用郡佐用町平福 594
開館日 / 土・日・祝日（年末年始は休館日）
開館時間 / 午前 9 時～午後 4 時
入館料 / 大人 200 円、子ども 100 円